



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島司教区 電話099(26)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道 標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

「宣教家族」を派遣

スペインからのマルチネス一家



派遣式に臨む宣教家族の8人

スペインからやって来た宣教家族は、マルチネス・ポゾ・アルフレッド(三十四歳)、ソト・ウトウリツラ・エミリア(三十歳)さん夫妻とその子どもルツ(十一歳)、デボラ(十歳)、ミゲル(八歳)、ユディット(五歳)、ガブリエル(三歳)、ロレト(十か月)の八人。彼らは教皇認可の「新求道期間の道」で養成を受け、教区が始めることにした「異邦人への宣教」をそのま

教区に新しい歴史刻む

郡山健次郎司教は「新求道期間の道」の国際責任者チームとの合意に基づき、スペインから「宣教家族」を受け入れ、その派遣式を六月二十六日(火)鹿児島カテドラルでの聖ペトロ・パウロの祭日のミサの中で行った。

「時代」が次のステップに入ったとして「異邦人への宣教」とこのスペインからの一家の受け入れに踏みきった。マルチネス一家は同じく新求道期間の道の養成を受けて司祭となったホルヘ・ソーサ神父が担当する奄

9月17日「教区フェスタ」開催

司祭評議会で決定

司教の諮問機関である司祭評議会が七月十七日(火)教区本部で開かれ「教区フェスタ」の開催を決定した。それによると場所は鹿児島カテドラル・ザビエル教会。プログラムは三部構成で「一部」十時・ミサ「二部」正午・昼食とアトラクション「三部」十五時・聖体賛美式となっている。開催の目的は「福音宣教」と「殉教」。特に、来年予定されている日本一八殉教者

美大島の小宿小教区に所属し、神父と協力しながら家族ぐるみで宣教を始めることになった。

マルチネス一家の派遣のミサで説教した郡山司教は集まった信者たちに「国を離れ、見知らぬ国へ出かけてまで宣教にかける家族がいることは衝撃的。皆に福音を告げ知らせる者になって欲しいという見本だ。彼らを迎えた小教区が、教区として受け入れ、元気になるって欲しい」とメッセージを贈るとともに、宣教家族に「福音宣教する鹿児島になるために力を貸して欲しい」と願った。

列福式へ向けた歩みのスタートとする。評議会では当初、二年間開催されていなかった教区評議会の開催と九月に予定されていた教区フェスタの中止について審議したが、信徒一人ひとりがいかに福音宣教の意識に目覚めることができるかに議論が集中した。審議の結果、宣教の意識の目覚めは会議形式や組織の運用だけでは限界がある



フィリピンで働くシスター深谷のぶ子

ドゥン、タム両師の叙階式に参列した教区の巡礼団にマニラ市街地を案内し、またフィリピンの現状を説明してくれたシスター深谷のぶ子(援助マリア会・四十八歳)。フィリピンで働くようになって三年目というこのシスター、実は鹿児島に縁がある。鹿児島で大学の四年間を過

ごし、その間に鴨池教会に足を運び、青年会と付き合ったという。今はフィリピンのケソンシティのクマオという教区を中心にスクワッターと言われる貧しい人たちのために働き続けている。シスターの仕事は、学校にいけない子に奨学金を出し、またその親たちが仕事ができるように援助すること。「学校に行くより、家族を養うことが大事」という意識と家族の絆が強いこの国では、日本と同じような価値観で教育の大切さを説くのは困難だとか。

「ここでは、ほとんどの家が貧しい。皆、いろいろやりたいことはあるけど、社会的にも大きな壁がある」とシスター。笑顔の素敵なシスターだが、貧富の差の激しい国の町の雑踏を見つめる目には憐れみとも怒りともとれる感情が漲っていた。

修道会便り

▼聖血礼拝会ヨゼフ修道院 ベトナムからの志願者四人が七月十九日(木)到着した。

宣教奉仕者養成講座を継続

北薩地区司祭団

北薩地区(大口、出水、入来、川内、阿久根の各小教区)では五月の北薩カトリック大会で任命された宣教奉仕者の養成講座をさらに継続することに。講座は月一回のペースで会場は持ち回りで開催される。

日時と会場は以下の通り。

2007 聖フランシスコ・ザビエル上陸記念祭 8月12日(日)

第一部 ザビエルウォーク 時間 14時 場所 ザビエル上陸記念碑前出発〜福昌寺、ザビエル教会、教会到着後に平和の鐘を鳴らします。

第二部 記念ミサ 時間 17時 場所 ザビエル教会

第三部 パーティー

YET

ある日の夕方、本部のボスは港にいた。走って来た様子で、短パンとTシャツという出立ち。違っていたのは、色とりどりの紙テープを持っていったこと。実はこの日、スペインからきた宣教家族の派遣式があった。式典のあと市内の史跡を案内したボスは、折角だからと船で奄美へと赴く彼らの見送りに足を運んだのだ。▼馴染みのない種類の「家族」である。食生活から何もかもが違う国へ土地へと喜んで出向き、家族ぐるみでの生き方で福音を告げる。幼い子どもも抱えているのに。だから彼らへの第一印象は「ふん」▼少し前、上野景文駐バチカン大使が「カトリック的愚直さ」について新聞に書いていた。大使は「生命」等に関する問題で一歩も譲らない教会の姿勢を愚直さと表し、褒めているのだ。そして「しょうがない」と体勢に流される社会に對し「原則に立ち戻ろう」と呼びかけることの必要性を訴えていた▼「愚直」とは「正直一途で、臨機応変の才がないさま」だが、臨機応変でなくてよいことがある。国を出て来た宣教家族は「何かにこだわっている」そう思う。非難も受けるし、すぐに快く受け入れる者ばかりでもない。それでもこのように生きる「愚直」と言われるまでの「こだわり」は、宣教という「原則を生きている」ことに突き動かされているからだ。自分が少し恥ずかしくなった。

ガリラヤ湖で漁をしていたシモンとアンデレにイエスは声を掛けます。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(マタイ福音書4章19節)人間をとる漁師とは一体どういう意味だろうと考えます。漁師は水の中から魚を捕って生計を立てます。魚は水の中から釣り上げられると呼吸ができなくて死にます。一方、人間の場合、胎児は母親の羊水の中で成長してきましたが、母親の胎から出たとき初めて酸素を吸って命を得ます。もし胎児がオギヤ、オギヤを叫ばないなら大変です。命の危険があると分かり即座に救急治療が施されるで

新風

「人間をとる漁師にしよう」

―生と死を考える―

しよう。魚は水から出て死に、人間は水から出て生きるのです。このことは否定しがたい事実です。この自明の真理を多くの日本人は見過ごしています。「人間をとる漁師にしよう」というイエス様の意図は水の中

で死んでいる人間に命を与えよう、と言っているのです。換言すれば、死んでいる人間を甦えらせよう、としているのです。

聖書の中ではガリラヤ湖は海と言われています。そのイメージは日本で行われている海の幸を人間にもたらし母のそれではないのです。火口湖ですり鉢型のこの湖は自然現象として突風が突然吹き荒れてもおかしくない湖なのです。従って、そこで働く漁師たちはいつも死の危険を身にかけている海の幸を人間にもたらし母のそれではないのです。火口湖ですり鉢型のこの湖は自然現象として突風が突然吹き荒れてもおかしくない湖なのです。従って、そこで働く漁師たちはいつも死の危険を身にかけてい

司教執務
室便り

アタシも宣教師に…

先月スペインからの宣教師に会った。父親のアルフレッドは一人っ子だという。なのに、どうして、「家族ぐるみで日本に行ってもいい」という気持ちになつたか聞いてみた。「神様の望みに委ねた」との答え。あまりにも簡単な答えに驚いたが、ドラマチックな動機を期待したことを恥ずかしく思った。考えてみると、「どうして司祭になりたいと思つたのか」という質問には「神様が呼ばれたから」としか答えられないのと同じではないかと思つたからだ。

「お父さんたちは神様を知らない日本の人たちに神様の事を知らせてあげる宣教師になりたいと思つているが、ルツはどう思う?」

大好きなおじいちゃんやおばあちゃん、それに仲良しの友達と別れることを思うほどは想像に余りある。そ

れでも、しばらく考えた後で、悲しさに顔をゆがめながら長女の口から出た返事は、「アタシも宣教師になる」だったという。「神様を知らない人に神様のことを知らせてあげる」を選びをした十一歳のルツ。けなげというか、いじらしいというか。こうした親子の姿に、私たちがとうになくした親子の姿があるようではない。何よりも、み言葉に養われた信者の家庭の究極の姿がそこにあると言つても過言ではない。

子供たちは早くも片言の日本語を話し始めたという。校長先生も「物心両面から応援します」と仰しやってくださった。みんなで応援したい。



も死に引きずり込む悪魔の支配するこの世の表象として弟子たちの間に語り継がれることとなります。迫害の嵐に遭遇したとき、使徒たちに嵐を鎮めてくれたあのイエス様との最初の出会いの記憶が甦つたのです。「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ」(マタイ福音書26節)。

この世が悪魔に牛耳られた世界(マタイ福音書4章8節)であることを認めるなら、イエス様がシモン(ペトロ)とアンデレを召し出した理由、引いては教会がこの世に存在する理由も自ずと明確になるはずだと思います。(H・N)

私のそれでも体験

鹿屋教会 伊地知咲子

好きな詩がある。

あしたが世界が終わりであろうともわたしはきょうリンゴの木を植える

失意泰然、ひとみをキラキラ輝かせて生きてきた母が、この詩の中にいる。

三十数年口ずさみ続けてきたので、いつしか感化されていったのだろうか。

つぶてが飛んできた。

それでも聖堂へ向かう足を止めることはなかった。イエスに向かう歩みを止めることができなかつただけなのだが、そのおかげで、いまの深い喜びと幸せがある。

イエスがこの手を握ってお放しにならなかつたのかもしれない。きつとそうだ。

だから、郡山司教の「それでも喜び、希望、感謝」が心に染みる。

+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Pakahulugan ng Pamana ng Pananampalataya"

Ang Pamana ng Pananampalataya ay ipinagkatiwala sa kabuan ng Simbahan. Ipinagkatiwala ng mga alagad ang "Banal na deposito" ng pananampalataya (ang depositum fidei), na napapalaman sa Banal na Kasulatan at ng Tradisyon, sa kabuan ng Simbahan. "Sa pagsunod dito sa pamana ang bayan banal, kaisa ng kanilang mga pastol, ay palaging nananatiling tapat sa turo ng mga alagad, sa pagkakapatiran, sa pagsalo sa isang tinapay at sa panalangin.

Kaya sa pagmamalagi, pagsasanay at pagpapahayag ng pananampalataya na ipinagkatiwala, kaya kailangan-magkaroon ng magandang pagkakatatugunan sa pagitan ng obispo at ng sambayanan.

Ang Turo ng Simbahan ay ang pagbibigay ng tamang pagpapahayag ng Salita ng Dios, ito man ay isinulat sa porma o sa porma ng Tradisyon, ay ipinagkatiwala lamang ang buhay ng turo sa Simbahan lang. Ang bagay na ito ay ginagawa lang sa kapangyarihan sa ngalan ni Jesukristo. "Ang ibig sabihin na ang ginagawang pagpapaliwag ay ipinagkatiwala sa mga Obispo na naki isa sa kahalili ni Pedro, ang Obispo ng Roma.

Subalit ang Magisterium ay hindi nakakataas sa Salita ng Dios, subalit ito ay isang katulong. Nagtuturo ito kung ano lang ang ipinagkatiwala sa kanya. Sa utos ng Dios na Makapangyarihan at sa tulong ng Espiritu Santo, na nakikinig ng masinsinan, binabantayan na may dedikasyon at ang pagpapalaganap ng mgay pananampalataya. Ang lahat ng ito ay nangagaling sa isang makapangyarihan pagpapahayag na nangaling sa isang deposito ng pananampalataya.

Alalahanin ang mga salita ni Kristo sa kanyang mga alagad: "Ang sinumang nakikinig sainyo ay nakikinig sa akin," ang mga tagasunod ay tinatanggap ng may kaba-baang-loob ang mga turo at ang paggagabay ng kanilang mga pastol na ibinibigay sa ibat-ibang porma.

Kaya tayo rin mga binyag sa ngalan ni Kristo ay bahagi rin na makinig sa mga turo ng Simbahan. Lalung-lalo na kung mayroon tayong mga katanungan sa buhay, ang simbahan lang ang makakatulong sa atin.



神父が司教が「泳いだ」「こいだ」「走った」
第20回徳之島トライアスロン

天城カトリック幼稚園のトライアスロンチーム「カトリック・アスリート」は7月1日に実施された第20回徳之島トライアスロン大会に参加した。

同チームは、スイム、自転車、ランを分業するリレー形式が採用された五年前の大会から参加している。いつもは幼稚園児の保護者、職員、園長(メニヒ神父)での参加だが、今年は第20回記念大会ということもあり、姉妹幼稚園「亀津カトリック幼稚園」の園長・福崎神父、メニヒ神父、そして郡山司教がメンバーとなった。担当は福崎神父がスイム(2キロ)、メニヒ神父が自転車(90キロ)、郡山司教がランニング(21キロ)。これまでに個人でもチームでも同大会に参加しているメニヒ神父は「ビリでしょうけど、幼稚園と教会のアピールと社会参加」と抱負を語っていたが、結果は…

芸達者が集まって夏の夕べを楽しむ
第1回司教・神父を囲んでの懇親会

7月16日(月)ザビエル教会に120人を超える人が集まり不思議な集いがあった。開催のきっかけは中野神父の歌を聴きたいという要望からだったらしいが、これにベルナルディーノ神父をはじめ芸達者な信者たちが加わって「芸術祭」へと発展した。皆は食事を取りながら、太鼓やダンス、リコーダーの演奏に、そして中野神父やベルナルディーノ神父の驚きの歌唱力を存分に楽しんだ。





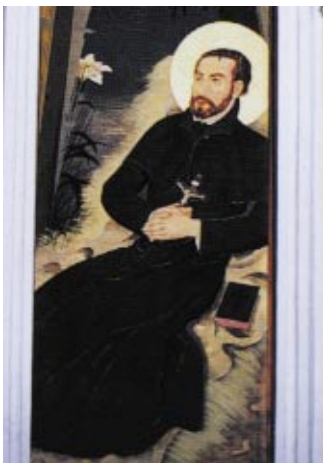
ザビエル上陸記念碑



島津貴久との会見の碑



ザビエルと親交のあった忍室和尚の墓



長谷川路可画伯の臨終のザビエル

ザビエル上陸記念祭

みんなで盛り上げよう!



自主学习グループ 共に祈り・学び・活動
鹿児島カトリック女性信徒の会「講演会」
 テーマ:家庭—愛といのちのきずな—
 講師:川添 猛神父様(熊本・帯山教会主任)
 日時:10月8日(月)講演 13時30分・ミサ 15時40分

聖フランシス・コザビエルの
 日本上陸をお祝いいたします

紫原教会 ヨセフ会



洗礼者ヨハネ 吉原昌吾
 鹿児島市荒田二丁目46-12
 TEL (099) 254-9978

加世田聖母幼稚園

園長 泉 浩二
 南さつま市加世田本町35-2
 TEL 0993-52-2553

枕崎カトリック幼稚園

園長 泉 浩二
 枕崎市山手町127
 TEL 0993-72-0717

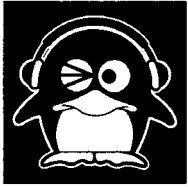


TEL 229-2964
 E-mail kiwayoshi@muc.biglobe.ne.jp



〒892-0811 鹿児島市玉里団地三丁目23-2
 ☎0120-292964・TEL 229-2964・FAX229-5139

『かかりつけの電器店』として お役に立ちます!!



電器のプロショップ
セムコエヌ
吉野店
大明丘2丁目(大明丘中央バス停前)
TEL (099)295-7286

鹿児島・宮崎
熊本・福岡・沖縄に
57店舗の広がる安心
ネットワーク
吉野店代表 田中 晋司

たかさお歯科医院

アシジの聖フランシスコ

高 竿 寛 実

〒892-0802 鹿児島市清水町17-7

TEL 099 (248) 3600

創る デザインを
Your Digital Printer
PPS
ご希望の
プリンター・複写機・ショップ
(株)プーナ
代表取締役 太田勇二郎 (谷山教会)
0993-47-0877

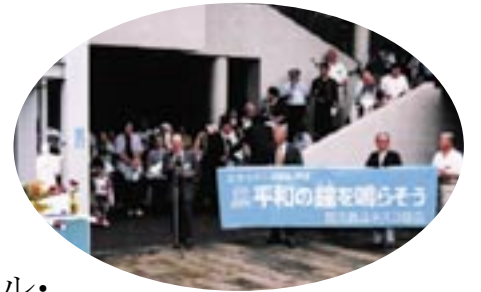
ザビエル上陸記念祭

2007年8月12日 日曜

・ザビエルウォーク

午後2時 上陸記念碑前を出発してカテドラル・ザビエル教会まで徒歩巡礼

・「平和の鐘を鳴らそう」(鹿児島ユネスコ協会)



・記念ミサ

午後5時 カテドラルで郡山健次郎司教司式

・パーティー

ミサ後 カテドラルの庭とホールで



ザビエル上陸記念祭を応援します!

学校法人 聖マリア学園 **聖母幼稚園**

一人ひとりをたいせつにし、

その子らしい人格の形成を援けるために

モンテッソーリ教育(福音)を!!

〒890-0054 鹿児島市荒田2丁目53番11号

☎099 (254) 3555 / 099 (258) 9513

seibo@po3.synapse.ne.jp http://academic1.plala.or.jp/seibo/

業務内容

- 電気トラブル解消! ⇒ 快適な暮らし応援します。
- 太陽光発電システム販売・工事
- アンテナ工事
- オール電化工事
- 電化製品修理・販売
- エアコン移設・工事
- その他電気工事



(有)マンボウサービス

鹿児島市吉野町845-6 TEL 246-3678 246-3687

第49回 日本カトリック看護協会
全国大会 IN 鹿児島

テーマ 寄り添う看護～マリアの心で
「いのち」のケアを

とき 2007年11月9日(金)～10日(土)

会場 鹿児島純心女子大学(薩摩川内市)



院長 田中源郎

〒890-0082 鹿児島市紫原4丁目19-10 TEL 099 (251) 1225

大熊小教区ヨゼフ会が奉仕作業 和光園教会が夏らしくすっきり

大熊小教区の平三國通信員(浦上所屬)から六月十七日(日)に実施された壮年たち(ヨゼフ会)による和光園教会での奉仕作業のレポートが届けられたので紹介したい。夏本番の奄美大島、教会はきれいに清掃されて少し涼しげになったとか。

数年来の懸案であった和光園教会の木々(聖堂の屋根や池の上まで伸びた松やデイゴ)の伐採や、池の清掃、聖堂周囲の雑草刈りなどの作業を大熊、浦上の壮年約二十人が参加して行いました。当日は午前、午後と一日中作業をしましたが時折、雨も降る日でした。懸案になっていたのは、松やデイゴの木が約四十年経って大木になりすぎ、伐採にはバケット車やユニック車、チェーンソーなどが必要だったからです。今回はそれらを借用しての作業

報(第百五号)「教会めぐり」をもとに触れてみたいと思います。奄美和光園は一九四三年(昭和十八年)国立ハンセン病療養所として開園しました。



ヨゼフ会の活躍でさっぱりした教会

一九七三年(昭和四十八年)年頃「教会めぐり」当時、患者数約二百八十人、そのうち信者が約八十人、職員が約三十人いたそうです。高齢化が進み、現在は園の入所者約六十五人のうち信者は約三十人になっていきます。

て以来、ハンセン病に対しては多くの差別や偏見を生み、らい予防法が廃止されたのは一九九六年のことでした。イエス様の時代、イスラエルにもハンセン病患者がいてイエス様がいやされたとあります。文語文の聖書では「癩病者」と表記されていましたが、新共同訳では「重い皮膚病」という表

現になりました。私たちが子ども時代「らい病はうつる」と言われて怖いものでした。現在はハンセン病元患者の入所者と親子の交流の場として、入所者が畑の一部を親子へ貸して「和光ファミリー」として野菜など作って交流しています。隔世の思いひとしおです。

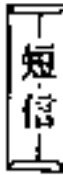
「鹿兒島教区奄美女性連盟」に改称

奄美カトリック女性連盟総会で

奄美カトリック女性連盟は七月十六日(月)二十九回目の総会を開き、名称を「鹿兒島教区奄美女性連盟」に改称し、八代目となる新しい会長に久保正子さん(小宿教会)を選出しました。新会長に就任した久保正子さんは「これまで先輩が築き上げてきた奄美カト

リック女性連盟の火を消さないためにふつつかながら引き受けた。今後、イエスの証人として、一緒に福音宣言をしていきましょう」と挨拶した。改称の理由については同連盟は以前から「日本カトリック女性団体連盟」に加盟しているにもかかわらず、全国レベルで奄美が鹿兒島教区に属しているとの認知度が低いため鹿兒島教区を明記した方がよいという判断から。

佐久神父は講話の中で「ミサとは神に直接ふれること」とミサの大切さを語り、宣教と宣言の違いについては、前者は他人任せ、後者は自分自身のこと、と語りかけた。午後三時から派遣のミサがささげられ、四時に閉会した。



九州合同奉仕者会 聖霊による刷新九州合同奉仕者会が、七月六日(金)と七日(土)の二日間、ザビエル教会で開かれた。

国際青少年音楽祭 ベルギーからカンターテ・ドミノ少年合唱団を招いての国際青少年音楽祭が七月九日(月)ザビエル教会であった。

霧島国際音楽祭 恒例になっている霧島国際音楽祭のザビエル教会コンサートが、七月二十日(金)ザビエル教会で開かれ、中鉢聡さんの歌声やティモシー・ハッチンスさんのフルートの音色が聖堂に響いた。

門田 明氏の 鹿兒島とキリスト教

ローマを訪れた 鹿兒島人ベルナルド

先号では、ザビエルがヨーロッパに送った鹿兒島人ベルナルドが一五五三年リスボンに到着したことを書いた。このベルナルドについては、『ギリシヤ研究 第五輯』(吉川弘文館・昭和三十四年)掲載の論文、Pasquale M.D. Elia S.J.「ローマを訪れた最初の日本人ベルナルド(一五五五年)」(本田善一郎訳)が詳しく取り上げられているので、その要点を紹介する。

ザビエルは一五四九年八月十五日鹿兒島に上陸し、「日ならずして洗礼

を施している。…その領内で最初に、さもなくば確かに二番目に洗礼を受けたのは、鹿兒島のかなり貧しい青年であった。ザビエルはこの青年にベルナルドという霊名をおくつた。彼の正確な年齢、日本名はわからない。「ベルナルドはザビエルに接するうち、この人こそ自分の師として恥ずかしくない人だと思ふようになった。それから片時も聖人の側を離れず、ヨーロッパに旅立つ日までその生活が続いた。」(上記論文引用)

リスボンに到着したベルナルドはイエズス会に心を惹かれるようになり、一五五四年二月頃入会を許可されている。そして、かねてからのローマ行きの希望がかなえられることになり、一五五四年七月十七日逗留し

ていたコインブラを立ち、正月初旬ローマに着いた。そして、教皇パウロ四世に謁見できたという。しかし、この長い旅は彼に大きな負担となった。途中で体調を崩し、一五五七年初頭病勢が募り、三月三日灰の水曜日の少し前、多分二月中と思われるが、コインブラで永眠した。彼の最期を看取った神父はこう言っている。「彼は聖人のように死んだのです。彼が我々と共に生活していた時、たえず我々の模範であったように、その死に臨んでも、また我々を深く感動させたのでした。」ベルナルドの霊性の深さを物語る言葉であり、数百年の歳月を経たいまも、若くして逝った彼の死を深く惜しむものである。(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

総会は午前十時から、名瀬聖心教会で開かれ、百八十人が参加して進められた。また午後一時からは晴佐久昌英神父(東京教区)の「福音宣言」と題した講話が行われた。講話には一般の信者四百人が集まり神父の話に感動した。晴

8月 今月の暦

- 3日(金) ルーシン神父命日(一九九四年)
- 4日(土) レヒナ神父叙階記念日(一九六〇年)
- 5日(日) 年間第十八主日
- 6日(月) 主の宴

▼カトリック平和旬間・15日まで

一九八一年、教皇ヨハネ・パウロ二世は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もつとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した八月六日から十五日までの十日間を「日本カトリック平和旬間」と定めました。

「平和旬間」に広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

- 7日(火) 小平卓保神父命日(二〇〇五年)
- 8日(水) 田原 章神父命日(ドミニコ)
- 10日(金) 聖ラウレンチオ助祭殉教者
- 12日(日) 年間第十九主日
- ▼ザビエル上陸記念祭・14時(ザビエルウオークスタート)・17時(記念ミサ・ザビエル教会)
- 15日(水) 聖母の被昇天
- 19日(日) 年間第二十主日
- 20日(月) 夏期集中講座・ザビエル教会ホール・24日まで
- 24日(金) 聖バルトロマイ
- 26日(日) 年間第二十一主日
- 28日(火) 橋口啓悟神父命日(アウグスチヌス)
- ▼オーバン神父命日(二九八八年)

こんなものを見つけました



六月十九日(火)から二十四日まで鹿兒島市美術館地下展示室で開かれた「七社絵画教室 第五回作品展」で、なんと、郡山司教の作品教点に出合いました。

第49回JCNNA全国大会を鹿児島で開催 皆様のご理解とご協力を

日本カトリック看護協会(JCNNA)鹿児島支部の歩み
昭和四十二年(一九五七)日本カトリック看護協
昭和三十三年(一九五八)鹿児島支部設立、同時にカトリック医師会も支部設立
昭和五十六年(一九八一)十月、カトリック看護協会鹿児島支部再発足
顧問司祭 田原 章
会員七人(支部長 シスター澤ヤエ子)

その後、数年継続していたようだが、看護職多忙のためか自然消滅となっていました。
昭和五十六年(一九八一)十月、カトリック看護協会鹿児島支部再発足
顧問司祭 田原 章
会員七人(支部長 シスター澤ヤエ子)

では、毎年国内の地で全国大会を持ち、会員の霊性および学術向上と相互の親睦を深めております。JCNNA支部は日本に十四地区あります。そのうち一支部は結成して日の浅い地区です。二十六年を経た鹿児島支部は少人数(十一人)の会ですが、全国の会員をこのザビエル様の地にお招きし、第四十九回全国大会を開

聖霊の集いに参加して

柱 日出子
主が共に住み
古い自分は過ぎ去る
わが主イエス
あなたの愛が
わが主イエス
わたしを満たす
七月六日(金)、七日(土)ザビエル教会で開かれた「聖霊による刷新 九州合同奉仕者研修会」は賛美歌で始まり賛美歌で終わるといふ素晴らしい研修会でした。
福岡、熊本からも豪雨の中をたくさんの方がおいで下さり、分かち合いの

催しようと思いはした。看護者としての熱き思いを、また医療現場の切実な問題を話し合えたら等々と、鹿児島支部の会員は総力を上げて準備に取り組んでおります。鹿児島教区皆様のご理解とご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。また関係各位のご参加をお待ち申し上げます。
私たちは日常生活の中で悲しいこと、辛いこと、どうにもならないことに遭遇すると主に願います。そして万事がうまくいくと主主に感謝の祈りをささげます。
月二回の賛美の集いの中で、皆でイエス様への賛美の歌をささげるとき、喜びも悲しみも一つになり、聖霊の満たしの中で時を過ごすことができるのを感じたいです。
聖霊 心に
いまきてください
聖霊 心を
もやしてください
聖霊 聖霊
いまあふれでよ
つかわしてください
神に感謝、ありがとうございます。

JCNNA全国大会
二〇〇七年十一月九日(金)〜十日(土)
会場 鹿児島純心女子大学(薩摩川内市天辰町二二六五)
テーマ 寄り添う看護ーマリアの心で「いのち」のケアをー

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

市川房枝選
出水 沖 弘子
紫陽花に埋もれてしばし聞く瀬音
(評) すっきりとまとめられた佳作
田を守る人をちこちに夕茜

短歌 (思川短歌会作品)

純心学園 川上 和
庭先のホタルブクロの薄明かり
(評) 夕闇の中に咲くホタルブクロが薄明かりで引き立ってきました。
鹿児島 東 健一郎
黙想の深山に夏のうぐみすや
(評) 黙想のしづけさが良く表現されている。

市川房枝選

阿久根 中津濱フサエ
夕やけに心はずまずロザリオよ
純心学園 山頭信子
五月雨にクルクルまわるぎぼうしかな
鹿児島 春山マリ子
蝶々も愛を歌って戯れる
鹿児島 龍門司真人
主よ主よ思いの丈を託す川

市川房枝選

阿久根 眞清水 藍
紫陽花の藍淡く濃く咲きつぎて露し
とどなる神無月は来ぬ
(評) 二句の「藍淡く濃く」の表現が良い。
純心学園 川上 和
古伊万里のレンガ煙突息を吐く手に
する器窯のぬくもり

市川房枝選

大口 森 博伸
彼の人は成せしこと知らざれば許し
給えとつぶやいてみる
奄美 林 常広
病室に見渡す路地の花々に吾のこころ
和みゆきたり
鹿児島 春山マリ子
わが園にひたすら祈り時刻む他人と
過す忍耐の日々
奄美 林 明子
満月の空を見上げて君想ふ風鈴ゆら
ぎ夏まつり来ぬ
選者詠
洗礼を受けていつしか四十年主に近づける
日々を楽しむ

市川房枝選

原爆忌深き平和の祈りかな
鹿児島 本城 愛
入船の汽笛も遠く夏暖簾
鹿児島 徳永ノブ子
雨あとの庭の静もる青葉かな



活気あふれる集い

「信者の本棚」 涙の理由

見棄てるが 三十分を迷い抜き
覚悟決して反転命じぬ



これは、一九八一年にベトナムを脱出したボートピープルを救助した日本籍タンカー「あるりやど」の船長が詠んだもの。「やっかいなことに巻き込まれた」「停船すると大きな時間と費用のロスがある」「様々な思いを乗り越え迷った挙句の救出だった。」「ファム・ディン・ソン神父(一九六三年生まれ)は、この船長に拾い上げられたベトナム人の一人。フィリピンで下船し、翌年来日、多くの苦難を乗り越えながら一九九四年司祭に上げられた。この本は船長と別れるときの船長が流した涙の理由をタイトルにしている。しかし中に描かれているのは、ベトナムの苦勞とそして神父自身の波乱万丈の歩み、そしてそこにかかわった人たちのあまりにもやさしい生き方である。女子パウロ会 千三百円

鹿児島カトリック教区報縮刷版

1962年創刊号から2004年12月号の縮刷版(A4判・4分冊)の特別献金での購入をお願いしています。
問合せは教区本部まで TEL 099 (226) 5100

カトリック新聞
へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・ザビエル
カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。
〒125-8585 東京都江東区豊見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円
見本紙贈呈いたします